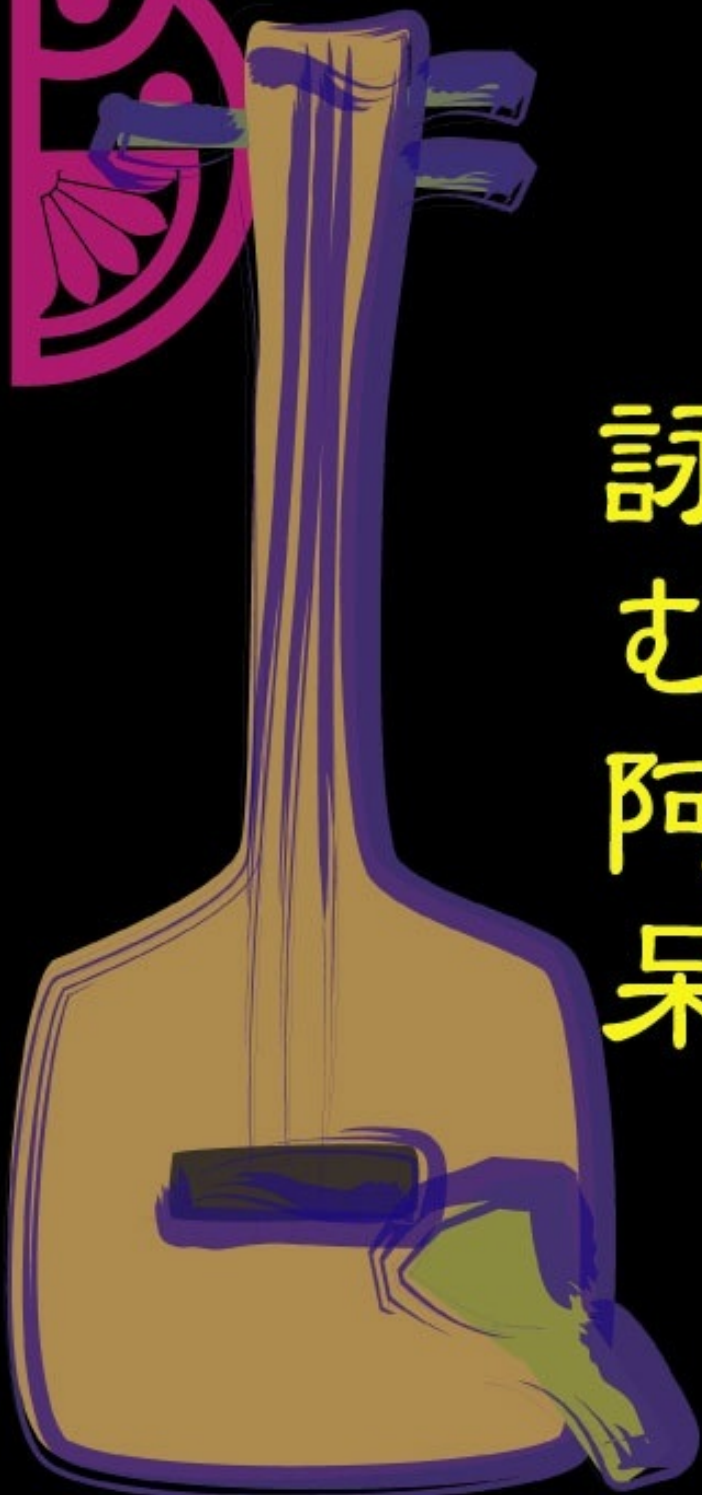


都々逸エレキ冊子

神戸節スペシャル

唄う
阿呆に

詠む
阿呆



都々逸エレキ冊子

唄う阿呆に

詠む阿呆

神戸節スペシャル



はじめに

都々逸（どどいつ）は、江戸末期に初代の都々逸坊扇歌によって大成された口語による定型詩であり、七・七・七・七・五の音数律に従って詠まれる。

元来は、三味線と共に歌われる俗曲で、音曲師が寄席や座敷などで演じる出し物であった。主として男女の恋愛を題材として扱ったため情歌とも呼ばれる。

(Wikipedia より引用)

都々逸がなんたるか。それならばご存じの方も多いでしょう。三千世界の烏を殺し、主と朝寝がしてみたい。散切り頭を叩いてみれば文明開化の音がする。教科書で見たことがある人も多いはずです。

それでは「神戸節」はいかがでしょうか。都々逸詠みである我々ですら深く付き合ってから知るこの唄のこと、嗜まない方が「こうべぶし？ 何それ美味しいの？」という反応になるのもまあ仕方ないと言えます。

ジブリのあの人の言葉を借りれば、

黙れ小僧！

お前に神戸節の不幸が癒せるのか。夜を生き抜く人間が、三味を片手に色と洒落を唄い語ったのが神戸節だ。一般人にはこうべぶしと読まれ、詠み人たちにすら「こうべじゃないぶし」などと揶揄される、俗で日陰で愛しい唄だ。お前に神戸節を救えるか！

くらいのマイナーっぷり。

短歌ほどではありませんが、歴史はそう浅くはありません。時代は寛政までさかのぼります。その時代に名古屋の熱田神宮の門前、神戸（ごうど）町の宿屋の私娼で唄われ、遊客の間で広まった歌のことを言います。神戸町が発祥のためこの名がつけました。「こうべぶし」ではなく「ごうどぶし」と読みます。

それが江戸や上方に流れて「名古屋節」と称されたもので、つまり都々逸の元となった唄なのです。

実際に唄われている神戸節の歌詞を見てください。

おかめ買う奴あたまで知れる 油つけずの二つ折れ

とりい二つ越えて宮まで行けば 尾のない狐に化かされた

宮の宿から雨降る渡り 濡れていくぞえ名古屋まで

お痩せなされた三日月さまよ やみのあげくのはずじやもの

かわす枕がもの云うならば わたしや はづかし床のうち

このように、都々逸を五つつなげて節に乗せて唄います。もちろん唄なのでリズムは重視ですが、ルールはこれだけ。都々逸のリズムを使って作詞をしていると考えるとわかりやすいのではないでしょうか。

しかしただでさえマイナーな都々逸、しかもその発祥の神戸節だけを取り上げてあまつさえ本にするなど我ながら正気の沙汰とは思えません。マイナー中のマイナーが個人の思いつきで本にできるなんてインターネットの時代は素晴らしいですね。

そんな思いつきに乗った酔狂な人々が集まりました。
都々逸のリズムに縛られながら、粋と色と情を唄う彼らの歌をどうぞお楽しみ下さい。



目次

序曲	8
二人羽織神戸節	11
名作台無し神戸節	33
河寫レイ スペシャルインタビュー「いらっしやいませ都々逸の沼」	37
あとがき	49
執筆者一覧	52

序曲



さてお立ち会い

唄う阿呆に詠む阿呆 脱いで踊るは真の阿呆

脱いで踊ってはしゃいで出して

出したお題は「夜」だった

寄って見るのも離れて聞くも腐女子みたがる 菊の花

うた詠みクラストー声掛けりや

二十余組のモノ好き集い 詠めや唄えの大騒ぎ

腕によりかけ体位は帆掛け 東京大阪 神戸節

百花繚乱 テヘランイラン 出来も不出来も わしゃ知らん

増える税金 減るのは賃金 夜越しの金を持つチキン

世知辛い世に 無料で読める お代貰えりゃ コケコッコ

肩肘張らずに頬杖ついて 主が読まなきや 閑古鳥

読んで頂戴 みてって頂戴 戯作駄作と 花も咲く

珠玉混同 勇は近藤 幕末武士でも 神戸節

さあ第一幕の

はじまりはじまり



猫亭屑屋：ツイッターで都々逸を詠む都々逸クラスタの一部で構成されたゆるめの組織「秘密結社DDIT」のえらい人（たぶん）。下ネタと駄洒落と猫を愛している。

二人羽織神戸節

今回の神戸節スペシャルの目玉企画、それは二人一組での作歌でした。

二人羽織。二人三脚。いろんな言い方がありますが、お二人で唄っていただいています。そう、いわばデュエット。飲みすぎたのはあなたのせいなのです。

今回のテーマは「夜」。

声をそろえて唄ったつもり、そんな歌たちをお楽しみ下さい。



初夜

二人過ごした最初の夜に熱は交わり重なる手
 宿すおおかみ素肌をさらし艶も隠せぬ艶姿
 声を殺して瞳を閉じて芯を染めるは愛おしさ
 白く染み込むあなたの愛が奥へ欲しいと身をよじる
 うぶに迎える朝寝の腕の互い支えて覚めぬ夢



トーヤ、中森つん

夏の宵

- ♠ 風の渚に流せる汝の涙拭はむ我が袖に
 ♡ 募る憂ひの波消さむとて一夜の袖に立つ名惜し
 ♠ 残る憂ひの浦波越えて共に通はむ潯標
 ♡ 呼ばふ忍び音身を尽くし待つ豈に否ばむや手を取らむ
 ♠ 秘して重ぬる逢瀬の端は ♡ 亀卜定むや縁の淵



ト部、ルオ

鼓動

姿見たくて迎えに出ればゆるり歩いて憎い人
 お前見つけて高まる鼓動 顔に出さない心意気
 甘えさせたい人に酔わされ甘え噛みつく負け戦
 止まぬ雨音闇夜に響き熱い吐息に耳澄ます
 君と別れて一人になってただの自分に戻るだけ



太田青磁、彩華

ひと夜

開けておくれよ灯がみたい揺らす炎の憎い夜

ほのを揺らすが一夜のはじめ逢えぬ数だけ抱かしやんせ

ひと夜重ねた押し花数え三つ四つじゃ足りやせぬ

花は揺られてふるえて落ちてあなた待つ身となり果てぬ

揺れる小舟に行き先告げてそっと簪くちづける



河鳶レイ、蒼井灯

ふたりでくらす

残業残業また残業でちゃんのおひさ、まあ飲もう

右目の開いた豆たんがいる前の満月ぶりの夜

寝顔と寝顔ですれ違いつつ一緒に暮らして6ヶ月

スーツとパジャマの抜け殻だけはいつも二人で重なって

「IEは死ね、IEは死ね、IEは死ね、ほんと死ね!!」



のの字、豆太

雨音探し

迫る夕闇 紫陽花覆い 雨のはじめのひとしづく
家も草木もこの世に無くば どんな音でしよ雨の音
雨音探ししてみりゃせんか傘は置き去りふたりきり
雨はこまやか街灯ほのか いつか出ようか夜の虹
宿る軒先見つからぬならうちに来ないか濡れ子猫



404notF0816 涼風あき津

ささのはさらさら

空の果てから眺める姿光り輝くアルタイル

夢の中では毎晩君のはたを織る音きらきらと

互いに文句を言いあった日々あれは幸せだったのだ

一夜限りの逢瀬に向けて橋を架けよう天の川

15光年ものともせず星を飛び越え会いにゆく



ねん、すいすい

雨夜

雨が降る降る隣の部屋じゃ啼いて喜ぶ雨蛙

うちも一雨くるかななどと触れてうそぶく熱い肌

ぬくみ欲して肌蹴る胸にするり伝うは雨滴

雲のヴェールをかき消すほどに火照りわななく足の先

月が覗けど構いやせぬと床はしとどに濡れにけり



下弦、双葉屋ほいる

猫と鰐と鯉

寂しさからの下手な口実 気付かぬ振りして会いに行く

好きの証拠にやきもち妬いて他所へ行くなと抱きしめて

弱い姿も見せれば良いの酔わせて見栄の皮を剥ぐ

泣いていいのよ鳴かせてあげる 伝う雫に這わす舌

眠る横顔眺めて思う この表情かおだけは私のだ



猫屋久太、月丘ナイル

緋籠唄

蝶の舞う園 夜伽の街に飛んで火に入ることがねむし

男待たせにたまむし紅を引けば廓に泪雨

情か芝居かうつせみ同士 腕に声なき玉雫

枕ならべた肌へに絹の薄翅かげろう一夜恋

蝶とこがねは緋色の籠を照らす旭に身を焦がす

月見草 咲くは徒花ひそやかな夜の風に散る色あざやかに



ヒロマル、矢野和葉

声は届けど

右耳の奥なまじ聞こゆは八キロヘルツに削がる声
 言痛かりとも離しませぬと受話器持つ手に力込め
 空見上ぐれば触るるばかりの月は君より遙けしや
 遠く眠れる無防備な息 護らせ給へ永久(とこしえ)に
 名も付けられぬ二人の仲を笑ふか鳴くは明け鳥



御調、小川弥生

化けるのは

少し優しいふりして主をいたただく夜の所為にして
 鉢に囲われ獲物も追えずに水面みなもにくちびる寄せて待つ
 くちびるだけで腹は膨れぬ嫌でもその身奪うだけ
 鈍いお方よ 月をさかすきに毒をあおった我を食め
 月あかり消してひと呑みにする 覚悟を決めて黄泉のみち



猫亭屑屋、ととこ

夜王

ジャージとお菓子をバッグに詰めてチャリで向かうは友の家
チリンチリンと鳴らせばすぐに窓に顔出し笑むあいつ

親の不在を確認したら2人揃って悪い顔

家が自由の城へと変わる 王はお前で俺も王

ファンタで乾杯 じゃがりこ開けて 夜の支配を始めよう



ひらたてる、あつくん

溶ける心は絡み合えども

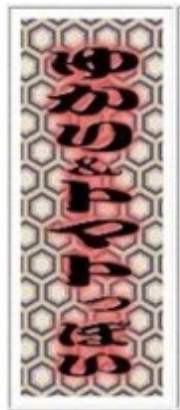
夜景映した水面に揺れる君は表情隠すまま
 夜に浮かんだ君へと腕 視線遮る水は背に
 帰る場所すら失うからだ愛か情かもわからずに
 溶ける心は絡み合えども月が沈めば知らぬ人
 続く夜さえ二人を隠す眩しい朝に目を逸らす



福山桃歌、せいや

星に願いを

逢えぬ今宵は想いが募る 主は何しているのやら
 心埋めるにや電波じゃ足りぬ 撫でて口寄せ囁いて
 主の鼓動を感じていたい 願う気持ちはわがままか
 星に願いを主には文を独り眠るにや惜しい夜
 橋をかけてと願ってみても つれぬ夜空がただ憎い



ゆかり、トマトっぽい

ふたりで眠るゆりかごの海寄せて返すは君の熱

星のない夜暗闇ふかくスイッチさぐる二本指

闇夜を抱いた瞳に堕ちて部屋には水音だけがある

クジラが泳ぐまな裏の海 意味を孕まぬ音の波

白い海から掬いあげては息の代わりのキスをする

身体の内ではじけるひかり新たな世界を生むひかり

野崎アコと長月優

野崎アコ、長月優

一人にしないで

別れようかと試しに言った からり氷のはぜる音
 ボンベイひとつと涼しい顔で言えぬ言葉を流し込む
 無理をさせてた一年半にガラムくゆらせ思い馳せ
 黙る貴方に別れを告げる 泣くも縋るもらしくない
 くすぶる未練を押し付け消した最後の夜の灰の跡



小早川、かなえ

ダブルアウト

密会するかと冗談めかし二人しげ込むダーツバー
 的を見据えるお前を眺めあおる揃いのジンバツク
 勝負の一投その横顔をパジエロパジエロと囃し立て
 馬じゃないけど念仏効かぬ無心で射抜いたブルズアイ
 次は負けんと笑った今日がまた来てほしいと言えぬまま



小早川、スコラップ

ほたる こい

しじまの河辺に瞬くほしは乞を囁くひの記憶

ホタル来い来い 団扇で招く光はなにかによく似てる

故意に灯した紫煙の糸がつなぐ天地のほしと星

夏の夜空に吐けずじまいの恋しさ静かに身を焦がす

ともに光を数えた人の気配が濃いまま また巡る



ごころ、東風

あやかし星一夜 ほしひとよ

星がながれてきえゆく夜にささやくわたし気づかれず
 風の寄る道しゅんしゅんしゅんしゅん草花は鳴り君となり
 かげもかたちもたないわたし影形あなたはそばにいて
 夜空流れてあなたをうつし心もとない声を聴く
 あなたの目には星だけうつりなみだのわたし見つからず



奈月遥、三日月百嶺

あやかし星一夜 ほしひとよ 解説

自我を持ってしまった木霊の妖、風小々八杞姫(かぜのささやきひめ)。姿を持たないために、妖の郷と人の世を繋ぐ鏡に映らず、人の世に強い憧れを抱くと同時に、唯一の友人が帰らなくなるのではないかと不安に思っている。(二首目、三首目、五首目)

他者の姿を写しとってしまう妖、うつし色。

写しとられた者は死んでしまうという噂をたてられ、徐々に居場所を失い、人間の住む世界へ逃げ込むように。(二首目、四首目)

名作台無し神戸節

和歌の世界には「本歌取り」という言葉があります。

元となる和歌の一句もしくは二句を自作に取り入れて詠む手法のことです。本歌を背景として用いることで歌に奥行きを与え、表現の重層化を図る効果があります。

平安時代には「歌を盗んでいゝ」と批難を受けた過去を持つ手法ですが、現在は元歌が明らかな場合は表現技法として認められています。

そんな伝統ある手法で名作神戸節（及び都々逸郡）を台無しにしてみました。とどのつまりはただの替え歌です。なんかすいません。

手法とか技法とか難しいことは全部忘れて、どうぞお気軽にご笑覧ください。

雨の降るほど噂はあれど ただの一度も濡れはせぬ

およそ世間にせつないものは 惚れた三字に義理の二字

入れておくれよかゆくてならぬ 私ひとりが蚊帳の外

惚れた数からふられた数を 引けば女房が残るだけ

ぬしによう似たやや子を産んで 川という字に寝てみたい

雨の降るほど噂はあれど 一度も会話に入れない

およそ世間にせつないものは しよう三字にいやの二字

入れておくれよかゆくてならぬ 私ひとりが蚊帳の外

惚れた数からふられた数を 引けばだあれも残らない

ぬしによう似たやや子を生んで 認知してよと迫りたい

おかめ買う奴あたまで知れる 油つけずの二つ折れ
とりい二つ越えて宮まで行けば 尾のない狐に化かされた
宮の宿から雨降る渡り 濡れていくぞえ名古屋まで
お痩せなされた三日月さまよ やみのあげくのはずじやもの
かわす枕がもの云うならば わたしやはづかし床のうち

ゴムを買う奴でかさが知れる Lのサイズに心折れ
ネオン街越えて上着を剥げばパッドの厚みに化かされた
照れる身体に雨降るシャワー 隠していくぞえベッドまで
お痩せなされたおっぱいさまよ やみのあげくに育たぬか
かわす枕がもの云うならば 互いはづかし板と棒

ひらたてる

モダンゴード

種も仕掛けもある訳やないが君の唾液が惚れ薬

どんな甘味を頬張れどなおその秘薬にはかなわない

蜜吐き 毒吐き 首筋すする すべておなじ唇で

消えてしまうから名前を呼んで 杭を刺してよ泥沼に

種も仕掛けも無い訳やなくて君に仕込んだ惚れ薬

胸の果実を頬張るはずがバレてあっさり平手打ち

「ごめん」「許して」「お願いだからア」すべておなじ唇で

消えっちまいなと踏ん縛られて消えてゆきます泥沼に

双葉屋ほいる

【神戸節】モダンゴード【ジャズアレンジ】

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm22601270>

河嶌レイ スペシャルインタビュー

「いらっしやいませ都々逸の沼」

—今回は都々逸エレキ冊子「神戸節シヤル」の突撃インタビューによるこそお越し下さいました。河嶌レイさんです。

河嶌 河嶌レイです。今日はよろしくお願ひします。

—今日はざつくばらんに神戸節スペシャルに参加いただいた感想などを聞けたらと思つてます。河嶌さんは普段短歌をお詠みになつていますが、都々逸を詠みはじめたのはいつごろなんでしょうか？
そもそも都々逸に馴染みがあったのでしょうか。

本格的に短歌を読み始めたのは2年ほど前くらいだと思います（よく覚えていない）。都々逸は1年前くらいからぼつぼつと…思いついた時にTLに放流している感じです。

—そうなんです！短歌は個人でネプリなんかも出していますし、もっと長いことやつてらっしゃるのかと思つてました。
いやー全然ですよ。短歌もド素人がいいところなんだかもうお恥ずかしいくらいありやしないです。都々逸はたぶん

都々逸クラスタさんの影響が強いと思います。TLで拝見していて「あ、面白そうだなー」って思ったのがきっかけでした。

— 都々逸クラスタ楽しそう、で入ってもらえるのはすごく嬉しいです。都々逸冥利（わるふざけ）に尽きます！

なんというか都々逸は粋なんですよね。あとエロい（爆）。そのバランスの妙に惹かれたというのが正直あります（あ、語り始めそう）。

— お好きですかね？？？（笑）

好きです（抄）。でもその粋な部分と艶っぽい部分のバランスの取り方で都々逸のセンスがバレそうでヒヤヒヤします。

— そうですね、粋を出そうとしすぎてい

つの間にか駄洒落になってたり、艶っぽいのを作ってるはずが下ネタになってたり。加減が難しい。

そこは個人の好みもあると思うのですが、わたしが「くうううー！かっこいい！」と思うのはそのバランスが微妙なところできちんと取れているものかなあと思います。例えばこれ、という都々逸が浮かばないですが、これからもっと勉強していきたいなと思いついて（告白）。

いいなと思ったものを書き留めておけばいいんですよ。これからは短歌も都々逸も手帳に書き留めておこうと思つていきます！都々逸沼にハマりそうな自分が怖い…。

後ほどお勧めの本などがありましたら教えてください。え、下さーい。

— 都々逸クラスタには馴染みのある柳家紫文師匠の本なんかいいと思います。もうすぐ新作も出ますので是非。(※1)それは楽しみです。是非！

— はい、是非。しかしお話を聞いていて今回神戸節に参加いただいたのは結構なチャレンジだったのでは？と感じました。「神戸節」というものはご存知でしたか？

神戸節に関しては知識ゼロからでした。「こうべぶし」と読んでいたくらいです。短歌のほうで行き詰っていたのと、都々逸への興味も相まってつい参加希望を…。

— いらつしやいませ都々逸沼(笑)。しかも相棒を誘って、という条件でしたからハードル高かったですよね。

もともと大衆的な娯楽に興味があったのと、艶っぽい感じが気になって、どうせ参加するならお相手を巻き込んだほうがこちらとしてはチャレンジしやすいかなと思ったんですよね。

— 一人で作る、ということでもしろハードルが下がったと。

はい。その通りです。わたしの場合はなのですが。

— くりこりす(※2)の皆さんはそういうイメージがあります。一緒に何かを成すのがとても上手で、楽しそう。我々もそ

うありたいです。

コラボって他のひととなにかを作り上げていくというプロセスがいいですよ。

個人であるのはまた別の楽しみ方があるし、そこから生まれる「熱」というか、そういうものがあるというか。

— 相手と自分の創作に化学反応が起る感覚がありますよね。深い話もできたりとか。普段は聞けないことが聞けたり？

そうですね、化学反応というのはいいい例えですよ。お相手との関わりの中で作品がどう変化していくのか。そこが面白いです。深い話や普段聞けないことも聞けちゃいますよね、うふふ。

— 「そういうふうを考えて作ってるんだ！」と勉強になる部分もあったり。そうなんですよ。わたしなんかよりずっと深く考えてくれたりして頭が下がります。

— 今回は蒼井さんを引きずり込ん…じやなかった、お誘いしてましたが、彼女を誘おうと思ったのはなぜでしょう？何かきっかけがあったのでしょうか。

まず今までコラボ作品にお誘いしたことがないかたを探そうと思いました。りこりす勢とはなにがしかのコラボをしていますし、都々逸ということで「お相手を口説き落とす」ところから始めたかったです。都々逸イベントに参加するので

すから、それにふさわしい姿勢で臨み
 かったというか…

— 口説き落とす!! 河寫さん男前です
 ね。ずっと思ってたんですけど(笑)

「黒薔薇」ですから!! (※3)

蒼井さんとはTLで絡んだ回数が少な
 かつたし、蒼井さんの歌も好きだっ
 たので誘いしてみたかったです。

— 黒薔薇さんさすがやでえ…(笑)

おほほほほほ…クス

— 口説くのはうまくいったんでし
 ょうか。都々逸って馴染みがないと結構躊躇
 するのではと。

— そうなんです。最初はずいぶん戸惑
 っていたんですけど、あの手この手で…な

んとか承諾していただきました。蒼井さ
 んはとても真面目な人で、都々逸に巻
 き込んでいいものかどうか迷ったので
 が(すみません都々逸クラスさま)、わ
 たしもそこはド素人ということで一緒
 にお勉強しようかと。

— あの手この手であんなことやこん
 なことを…

— そう、あんなことやこんなことを…
 なんてやねーん!

— 都々逸の世界では、そういうのを「手
 練手管」といいます(笑)

ほほーう(メモメモ)

— 蒼井さんは真面目でドジっ子、とい
 うイメージが。業務連絡にコメントしては

「あつ、間違えました！すいません！」
 とか真面目に謝ってたりしていや全然間
 違ってないし大丈夫ですみたいなのが
 何度か。かわいい。(笑)

はい、とても真面目でかわいらしいかた
 です(笑)。

—その真面目な方を、手練手管で口説き
 落として共作に。短歌でも相聞という形
 式があつて、河寫さんはこはぎさんと組
 んだりしてたこともありましたが、それ
 ぞれ違いがあつたりしました？

こはぎさんとの時はののさんの「R-2グ
 ランプリ」で、ひとつの歌をふたりで作
 り上げる形でしたが、今回蒼井さんとは
 ふたりで語り合うような形にしました。

なので形としては相聞？なのかな？

—相聞、一首ずつ交互に詠んでいく形式
 のことですね。初句はどちらが？

初句はわたしです。

—初句、「開けておくれよ」で始まるの
 はとてもいいと思いました。なにを開け
 るのか、どこにいるのか、想像させる言
 葉の使い方。ぼんやりと灯りのついた部
 屋に忍んで行く背中が見えて好きです。

今回の企画にお誘いしたのはわたしなの
 で初句はわたしからすべきだろうと。実
 はこの初句は簡単にできてしまったんで
 すよ(爆)

—なんと！

そこに蒼井さんの下のお名前を入れたわ

けです。そういう粋なところって都々逸のキモかなど。

— 短歌衆は相聞にお相手の名前を入れたりするので、おとおおーってなりませ。かっこいい。

逆に都々逸は入れないんですか？

— 都々逸はなんか役に成りきる感じがあります。フィクションの要素が強い気がします。もともとお座敷唄ですから、現代とは少し距離がありますよね。

ふむふむ、では「演劇」に近いような感じでしょうか？

— はい、近いと思います。花魁になったり、芸鼓になったり、悪い男になったり。確かに、今ではお座敷にはいけないです

ものね……。でもこの世はすべて幻だと思えば生きるのも演技だと。

— おつ、かっこいいですね。うつつよは幻。

愛はーかげろーうー♪

幻だからこそひと夜の愛に溺れる……ううううーっ!! (眉間にシワを寄せる)

— 歌謡曲感が(笑)。でも歌謡曲や演歌と都々逸は相性いいです。

わたしもそう思いました！演歌やムード歌謡のような。

— いぶし銀なんですよね！飲みすぎたのはあなたのせいよーとか、合う。

そうそうー！そういう世界好きなんですよ(爆)

— 短歌はもう少ししつとり、あつさり言葉を使うイメージがあります。河嶌さんは短歌と都々逸の違いなんて感じしました？

そうですね、短歌はやはりどこかあつさりしていて残り香も軽い感じがします。都々逸にはもう少し強い香りがする…なんだろうクチナシやジャコウのような？

— 癖がある？

そうですね。都々逸には短歌にはない癖はありますよね。

— 花は詳しくなくていいコメントできないんですが。短歌だと百合とかですかね？あまり詰め込みすぎないような。

そうですね、短歌は「余白」を大事にす

るようなイメージがあります。でも都々逸も「間」のようなものはありますよね？直接は言わずに何かに言わせるような。

— ありますね。リズム重視でもあるので、同じ言葉を繰り返すためにあえて大事なことを言わなかつたりします。「今宵限りを重ねた二人 今宵限りが今宵まで」とか。

大事なことは言わずに大事なことを匂わす！そこは短歌とも似ているのかな…？

— 通じるところは絶対あるはずなんですけど、言葉の使い方が違う気がしますね。

わかります。繰り返すことでリズムを作るから繰り返しは悪いことじゃない。わ

たしは好きなんです。やっぱり短歌のほ
うが「お品がいい」感じはありますね。
でも都々逸だからといって「下品」かと
いったらそうでもない。

— 艶っぽさをあえて隠す短歌、艶っぽさ
をあえて出す都々逸、みたいなの？

あーそこそこソコです！短歌に艶っぽさ
がないわけではないんです。その出し方
に違いはあるのかもしれませんが。わた
しは短歌と都々逸のちょうど真ん中にあ
るようなピミョーな匂いのする作品って
ないのかなって思うんですよね。そうい
う作品があったら読んでみたいな！。あ、
探せばそういう作品もあると思うのです
が（わたしが不勉強なだけで）。でもそこ

を狙っていいこうかな（笑）

— 河嶌さんかなり都々逸向いてる説!!
だからもー都々逸にハマりそうで困って
ますー。

— ハマれーどんどんハマれーー
きやー溺れるううううー！

— 短歌と都々逸の違い、というものを考
えるに当たり、ここで短歌結社なんたる
星（※4）と都々逸の秘密結社DDIT
を兼任するスコラブさんの作を持ってき
てみました。

チヨコだけで生きてゆけたらまた夜に覆され
る気持ちとしても（スコラブ・短歌）

ナイト頼むにや昼向にしなよ裸の騎士じゃ後
またず（スコラブ・都々逸）

どっちも「夜」で、何かができないことを詠んでいるのだけど。随分表現が違いますよね！

おおー！スコラブさんの作品は短歌も都々逸も関係なく「スコラブ作品」として成立している気がします。表現の仕方は違えど「スコラブさん」だー！

— ですね(笑) 短歌だ、都々逸だ、という前に「この人だ」と言われる詠み人。

「裸の騎士」……想像してしまっただ……騎士の剣は腰の横にあるのか真ん中にあるのか一瞬気になる歌ですね……

— りよ、りようほうだよう。エクスカリバーだよう!!

エクスカリバー(爆笑)

— トマホークだよう！デリンジャーじゃないよう！（必死）

小早川総統必死の形相の巻。

— 総統とか呼ばれてるのにエクスカリバーが短剣じゃ目も当てられない（なんの話）

サイズじゃないわ、切れ味よ!!

— はっ、盲点!!

都々逸クラスタさんとは和む……

— 和む？いつでも来てね！（キヤピ）

さて、話を戻しますが(笑)

はい(シャキーン！)

— 結局のところ、神戸節。やってみてどうでしたか？

とても楽しかったです。まず蒼井さんと

たくさんお話してきたし、そこから歌をどうするか、どう展開していくかも話し合えたのでコミユカも鍛えられました。都々逸の楽しさをたくさん体験することができたのでこれを機会にもっと都々逸を詠んでみたいです。

—河唄さんは肌で感じてくれてましたが、都々逸や神戸節の面白さは艶だったり粋だったりそういうもので。低俗であるからこそ面白かったり、そんなところがあります。是非今後も遊んでもらえたらと思います。

艶と粋いいですねえ、大好きです。

これからよろしくお願いいたします！

—インタビューの割に僕しゃべりすぎ

た感がありますが(笑) 楽しかったです。いえいえ、私もとても楽しかったです！総統ともお話したかったですし、わたし人見知りなので(笑)、こんな機会でもないとなかなかお話できなかつたでしょうし、お話をいただけてうれしかったです。

—人見知り…？(口説くあたりを思い出しながら)

口説くのは得意なんですがねえ……

—さすが黒薔薇様やでえ(二回目)

でも人見知りなところもあるんです！！
信じてくださいっ！！！！

—し、し、信じます！！(笑) では今後もたくさん話しましょうね。今日はこれまででつてことで、ありがとうございます

た！

はい、ありがとうございます！総統も

お忙しいのにありがとうございます。

冊子の完成を楽しみにしていますね。

— はい、ありがとうございます！

最後に一言ですが、総統ちやうわ！（笑）

※1 柳家紫文師匠の新作：二〇一五年七月七日発売「都々逸読本」。

みんな読んでみてね！（頼まれてもないのに宣伝）

※2 りこりす：ツイッターで短歌を発表している有志により創作された「RKRS 私立タイムライン学園生徒会」のこと。（<http://rks.is-mine.net/>）

※3 黒薔薇：りこりすの三年生。愛にフリーダムなお笑い担当（本人談）。

※4 なんたる星：ツイッターをきっかけに結成されたネット短歌結社。

独特の作風が特徴。（<http://p.booklog.jp/users/nantaruhoshi>）

あとがき

僕がはじめて電子書籍を作ったのは二〇一三年七月のこと。

無印「唄う阿呆に詠む阿呆」の後に春号、冬号と続き、この神戸節スペシャルで四冊目になりました。編集も発案も僕一人ではなく、その時々手の空いている都々逸クラスタ有志が手掛けるという臨機応変っぷり。

そんな風に活動をしていたらなんだかだんだん結社っぽくなってきて、双葉屋ほいる氏が言いだした「秘密結社DDIT」というネーミングがしっくりくるようになりました（全然秘密じゃないのはご愛敬です）。

別に会員名簿があるわけでもなく、そもそも都々逸は我々だけのものでもないですし、短歌を詠む皆さんもほとんど誘っていきこうという志のもと適当に気ままに各自好きなように活動(?)しております。

そんなわけで今回は短歌詠みさんにたくさんご参加いただきました。非常に光栄です

し嬉しく思います。これからもどんどん引きずり込んで：じゃなかった、お誘いして行きたいと思っておりますのでまた遊んでいただければ幸いです。

また、いつも僕の無茶振りに応えてくれる都々逸クラスタの面々、それぞれの得意分野で力を尽くしてくれてありがとうございます。この場を借りてお礼を申し上げます。

唄う阿呆に詠む阿呆、都々逸好きたちやみな阿呆。

どうせ阿呆なら踊らにゃ損よ、おいでおいでと手を招く。

都々逸で縁を結んだ皆さんが、これからも楽しい時間を過ごせるようお願いって。

二〇一五年七月九日 小早川

Produced by
秘密結社 DDIT



執筆者一覧（掲載順・括弧内ツイッターID）



トーヤ (@toyaya0218)

つんさんに都々逸童貞を捧げました。



中森つん (@nakamorisun)

トーヤさんの都々逸童貞を美味しくいただきました。



卜部 (@n_urabe)

五つ重ねる粹なる歌の行きつ戻りつ生くる日日



ルオ (@ruo129)

『女の季節は短い夏』と歌う夜の曲が好きな白梟です



太田青磁 (@seijota)

都々逸のリズムに慣れると短歌より楽しく歌えました。



彩華 (@ayaka_tanka)

隠れSな男との、とある一夜をお楽しみください



河島レイ (@ray_kwsm)

海外在住の根無し草。初めて都々逸で口説きました。



蒼井灯 (@heavenlyblueB)

胸を借りて初都々逸・情歌でした。普段は朴念仁系。



のの字 (@renga57577)

IE 死ね



豆太 (@qwerty_misp)

document.write("IE 死ね");



404notF0816(@404notF08169144)

濡れ子猫のあき津さん連れ帰りたい人生だった。



涼風あき津 (@akitsu_suzukaze)

濡れ子猫になって404さんに拾われたい人生だった。



ねん(@endofthe)

もつと上手く、よりいつも楽しく！レッツロマンティカ



すいすい(@tmsui_sui)

もつと語呂良く、よりいつも適当に！その場のノリ大事



下弦 (@kagen_s)

簡単おいしい！蛙のホイール焼き【どどど風味】



双葉屋ほいる(@hoiru_utayomi)

今晚のおかずにかがでしようか（意味深）



猫屋久太 (@nekoya222)

男つて馬鹿ね。（そんなおっさんが好きです。）



月丘ナイル (@nyle_222)

男つて馬鹿ね。（そんなだーりんが好きです。）



ヒロマル (@hiromaru712)

三千世界の烏を殺し



矢野和葉 (@kazuha828)

主と朝寝がしてみたい



御調 (@triarbor)

遠い二人を結んだテクノロジー。



小川弥生 (@yayoi_ogawa)

結ばれたが故に、一層募る愛しさと寂しさと。



猫亭屑屋 (@gatta_auto)

夜の帳が下りる頃には優しいカレシもただのオス



ととこ (@FNAWO)

メスとなり四肢食われるフリで首筋裂く隙探してる



ひらたてる (@BB_teru)

ビターチョコが好きです。ありがとうございました。



あつくん (@seamallow)

チョコパイが好きです。ありがとうございました。



福山桃歌 (@peachsong_521) 初めての共同作業、楽しかったです。都々逸好き。



せいや (@petitchante)

心が高鳴る日々でした。都々逸らぶ。桃歌さんらぶ。



ゆかり (@yukari_rito)

うぶで可愛い貴女が好きよトマト色したそのほほも



トマトっばい (@vol_008)

好きの言葉を伝える文も縁あつてのことと知る



野崎アン (@nashkrkr)

ふたりきり眠るゆりかご白い海



長月優 (@spicadrop)

僕と君とでつくる波、波



かなえ (@nugashite)

もう…出ません…ッ



小早川 (@dodoitsu)

二股ですいません絶倫なもんで



スコラブ (@scope_scape)

え、二股してたんですか…



ゃろー (@urashimagoron)

かつてないしっとり詠み。情景を想像してください。



東風 (@kochi_192)

2人で膝寄せ合って組み上げた星です。光れば幸い。



奈月遥 (@you_natskey)

よんで都々逸よぶのはどいつよんでよばれて夜祭りよ



三日月百嶺 (@mikagemone)

やれや都々逸どいつが光る音を鳴らせや満ちる散る

以上 三十九名

都々逸エレキ冊子
唄う阿呆に詠む阿呆 神戸節スペシヤル

二〇一五年七月九日 発行

挿絵 下弦、東風、ととこ

めくり 猫亭屑屋

装丁 猫屋久太

編集 小早川

本書の内容についてのご意見・お問い合わせは
編集者のツイッター([@dodoitsu](https://twitter.com/dodoitsu))にお願いします。